

令和８年度第１回 広域計画等推進委員会

日時： 令和８年９月７日（月）

１３：３０～１４：４５（対面）

場所： 関西広域連合本部事務局大会議室

○事務局

定刻になりましたので、令和８年度第１回広域計画等推進委員会を開催させていただきます。

本日は、お忙しい中、ご出席賜りまして、ありがとうございます。本日、進行を務めさせていただきます、関西広域連合本部事務局次長の石井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、試行的に対面とオンラインのグループを分けて開催させていただきます。まずは、１４時４５分まで本会場にて対面で実施し、次に１５時からオンラインで実施いたします。

上村委員におかれましては、委員名簿に会場出席と記載させていただいておりましたが、本日はご欠席となりました。

なお、本日の会議は、YouTube でライブ配信を行っております。

それでは、開催に当たりまして、関西広域連合本部事務局長の岸田より、一言ご挨拶を申し上げます。

○事務局長

本部事務局長の岸田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、ご多用の中、委員の皆様におかれましては、今年度第1回の広域計画等推進委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

昨年度は、第6期広域計画を策定するに当たりまして、4回にわたって、当委員会を開催させていただき、関西広域連合の取組や、果たしていく役割等につきまして、さまざまな貴重なご助言を頂戴いたしました。重ねて御礼を申し上げます。

さて、今年度から第6期広域計画がスタートしておりまして、計画に基づきまして、各分野の取組を進めているところでございます。計画に記載の通り、今年度のテーマの1つは、大阪・関西万博のレガシーの継承となっております。今年3月には、万博の成果を後世に引き継ぎ、関西の持続的な成長につなげるため、経済界、国、関西広域連合、大阪府及び大阪市が一体となった「未来創造会議」が立ち上がりました。関西広域連合からは、三日月広域連合長が委員として会議に参画し、「万博で披露された最先端技術等の実装化・産業化」などの取組が、関西一体で推進されるよう、積極的な議論を行っているところでございます。また、7月に発災いたしました熊本地震につきましては、関西広域連合では、熊本県の八代市、宇土市、宇城市の3市へのカウンターパート方式による支援を開始いたしまして、その後、家屋の被害状況等を踏まえ、カウンターパート先を柔軟に調整するなど、被災地のニーズに沿った支援を行っているところでございます。

引き続き、関西広域連合では、様々な課題に対し、積極的に取り組むとともに、昨年設置いたしました「新たな広域自治・行政のあり方研究会」におきまして、取り組むべき分野・事務、広域自治のあり方などにつきまして、議論を深めてまいります。

さて、本日の委員会でございますが、現行計画の計画期間であります今後5年間の本委員会の進め方や、令和8年度の施策・取組につきまして、委員の皆様からご助言等をいただきたいと存じます。併せまして、令和7年度施策運営目標及び関西創生戦略それぞれにつきまして、

期末評価を実施いたしましたので、その結果につきましても、ご意見等を承りたいと考えております。

大変限られた時間の中ではございますが、ぜひ、忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、資料については、資料 1 から 5 までの計 5 点、及び参考資料として 2 点を事前にお送りしております。お持ちでない方は、お渡しいたしますので、お知らせください。

それでは、議事に入ります。以降の進行は、新川座長にお願いいたします。

○新川座長

それでは、早速、次第に従いまして、進めていきたいと思います。本日の議題につきまして、事務局からまずはお説明をよろしくお願いいたします。

○事務局

本部事務局計画課の鈴木でございます。資料の詳細に関しましては、事前に動画でご説明させていただいておりますので、省略させていただきます。

まず、議題（１）「広域計画等推進委員会の今後 5 年間の進め方」につきましては、今年度からスタートいたしました第 6 期広域計画の計画期間である 5 年間の進め方を検討するものでございます。

次に、議題（２）「令和８年度の施策・取組」につきましては、取組状況のモニタリングとして、令和８年度の具体的な取組について、ご意見をお願いいたします。

加えて、議題（３）「令和７年度施策運営目標及び関西創生戦略 KPI 等の結果」につきましても、ご意見をいただければと思います。以上、３点でございます。

また、本日の議題につきまして、坂上委員と西村委員、上村委員から、事前にご意見をいただいております。いただいたご意見につきましては、先週金曜日のメールで、委員の皆様に共有させていただきましたが、西村委員と上村委員につきましては、本日、会場、オンラインともにご欠席ですので、ご意見を簡略にご紹介させていただきます。まず、西村委員から議題

（２）「令和８年度の施策・取組」に対するご意見です。アウトカムの目標数値に「満足度」が 14 件あるが、イベント等の参加者アンケートを用いるのであれば、受講者の知識、技術の習得度合いなど、運営目標に合わせた特定の質問項目に対する回答にした方が適切である。事業を実施するにあたって、効果を測ることは大事である。目標を立て、検証することによるコストに見合った成果になっているのか、といった視点を持って検証する必要がある、とのご意見をいただきました。

次に、上村委員から、議題（１）「広域計画等推進委員会の今後５年間の進め方について」に対するご意見です。今後の進め方において、「副首都構想」への明確なコミットメントを軸とした戦略的な検証と今までとの軌道修正が必要である。広域連合として静観・傍観するのか、主体的に動くのかを評価・検討し、その態度の方向性を決めるべき。政治的なことが絡むので、難しいと逃げて静観すると、大阪と国が決めたルールに従わされる。広域計画等推進委員会としては、単なる連絡調整にとどまらず、この副首都構想に早急に向き合うべき、といったご意見をいただきました。以上でございます。よろしくお願いいたします。

【議題（１）広域計画等推進委員会の今後５年間の進め方について】

○新川座長

ありがとうございました。それでは、議題に従いまして、順次進めてまいりたいと思います。

議題の１番目「広域計画等推進委員会の今後５年間の進め方」ということで、資料１をいただいて、すでにご覧いただいているかと思います。５カ年計画、基本的には、毎年の振り返りをしながら、中間年で少し見直しをして、そして後半につないでいく。また、後半では、さらに次の第７期計画の検討に入っていく。そんなイメージでございました。

この進め方につきまして、各委員からご意見などをいただければと思いますので、よろしくお願いします。ご自由にご発言いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○浦田委員

こちらの計画を見させていただきまして、３年目から、住民参加型ワークショップが夏頃に毎年開催されるということで、すごく良いなと思いました。このワークショップが具体的にどういったものになるのかといったところや、ワークショップで得られた成果・内容をどのように次の計画に反映させていくのかということを少し補足いただきたいなと思いました。

○新川座長

ありがとうございました。それでは、ご質問ございましたので、事務局で今考えておられるところをご説明いただければと思います。よろしくお願いします。

○事務局

現行の第6期広域計画を策定するときに、住民参加型のワークショップを開催し、住民からご意見をいただいたところでございます。次の第7期広域計画を策定するに当たりまして、同様に住民からご意見をいただきたいと考えています。第6期のときは、ワークショップと報告会を合計2回、最終年度に開催いたしました。できましたら、もう少し早い段階からご意見をいただけたらと考えており、住民参加型のワークショップについては、中間年の3年目に1度開催し、4年目、5年目につなげていきたいと考えています。

○新川座長

浦田委員いかがですか。

○浦田委員

ありがとうございます。ぜひ今までやられたことも踏まえて、良い形で進めていただけたらと思います。

○新川座長

ありがとうございました。第6期の場合は、若い方たちの意見を積極的に取り入れようというところで、進めました。次の世代を担うような人たちに積極的に参加していただいて、この住民参加型ワークショップを進められると、若い方はアイディアも新しいですし、私たちにとっても大いに参考になるご意見、たくさんいただけるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

梅原委員いかがでしょうか。

○梅原委員

議題1については、特にありません。

お手元に冊子を配りましたが、関西で例えば東京に誇れるもの、そして世界に誇れるものが何かというと、根本的に、決定的なのは、「うめきた」なんですよ。国鉄が改革されるときに、土地を売るということで、汐留は第1号、最後が梅田で大阪市が買った。あれがグラングリーン。そこに2.4 haのグリーンができた。駅から離れたところにグリーンがある国は色々ありますけれど、ここは駅そのものがグリーンになっている。国鉄の貨物ヤードが生まれ変わったのは非常に嬉しい。北と南の開発で大阪はやっていけばよい。この冊子、国会図書館にも配架を申し込んでいますし、全世界からアクセスして見ることができます。英訳もつけています。どういう経緯でできたか年表も全部付けています。今、世界中に発信しています。

○新川座長

グラングリーンの成果について、冊子を作成されて、それについてのご紹介をいただきました。ありがとうございました。しっかりみんなで勉強しましょう。そして、これからの新しい関西の発展の中心になりそうですので、そういうところを踏まえて、私たちも考えていければと思います。ありがとうございました。

議題（1）について、木村先生願いたします。

○木村副座長

議題（１）について、何点か申し上げたいと思います。

今回の資料には、予算までつけていただいて、皆さんがしておられることが立体的になって、大変わかりやすかったということで、まず感謝を申し上げます。資料全般を通して言えることであると思います。

今回は主に、どう計画を推進していくのかという点から、意見を求めておられるのかと思いましたので、進め方について意見を申し上げます。

第１に、計画期間５年間を通じて、１年目はこれだけの目標、２年目はこれだけの目標、３年目はこれだけの目標、４年目はこれだけの目標、５年目はこれだけの目標を、１枚の紙でいいですから、全体についてできるだけ数値化して明らかにしていただきたい。毎年、例えば、運営面で、満足度などの数値が、どういう位置づけで、前に比べてどう変化したのか、それに従い目標自体も変化させたのかどうかとか、何があって、その結果目標などがどう変わったのかということが、私たちも皆さんも、共に分析できるようになると思います。年度ごとの目標を明示的に共有すれば、進め方としては、より分かりやすくなるのではないかと思います。

それから２番目ですけど、万博レガシーの継承の１つとして、イル・ド・フランスとの覚書の締結は、非常に良いと思っております。希望としましては、国際的な関係は、すぐに効果は出にくいですが、非常に重要だと思いますし、この枠組みを使い切るぐらいに活用していただきたい。単に観光や交流だけでなく、生産性に影響を及ぼすまで言えるかわかりませんが、お互いの産業が活発になるとかですね。私たちが前にフランスを相手にして、こういう活動をいくつかした経験では、特にパリはプライドが高くて、こちら側にフランスに対する研究というのを、すごく相手は要求してくるし、そういう意味で、相手としては、あまり油断

できないなと思っています。それから、事務的な職員も、日本の感覚からすると、向こうはあまり働いてくれない。だからかなりこちらがリードするか、タイムスケジュールもこちらが握るぐらいにしないと、私たちの場合は難しかったので、ご参考までにということです。以上です。

○新川座長

はい、ありがとうございます。それでは、ただいま、「広域計画等推進委員会今後5年間の進め方」について、いろいろご意見をいただきました。

今後、特に住民参加型ワークショップ、これは令和10年度あたりからということですが、充実したものということで、ご意見いただきました。

また、今後の進め方の中で、1つは、毎年度の目標というのを、一覧化して、全体5年間で、各年度の行程がどこまで進んでいっているのかといったところを、毎年度明らかにしていくと、この計画としても、その進捗度合が分かりやすいですし、多くの方にとって、この計画に基づいて、何がどこまで進んだのか、ということをご理解いただき、また、同時に、そのための努力もしていただける、そういうものになるのではないかと、ということで、ご意見をいただきました。見える化というか、見やすくする化というような、そういうところがポイントかなと思いながら聞いておりました。

もう1つは万博レガシーということで、特にイル・ド・フランスとの連携が大変良いので、これを大いに活用してくださいということ。それから、どうもおフランス的な対応というのがあるみたいですので、このあたりはしっかりと我が方がきちんとコントロールをして、良い連携が進むようということで、ご意見をいただきました。ありがとうございます。

何より、5年間の計画、着実にこれを進めていただくということが大事かなと思っておりま

す。そして、5年後、当初の目標というのをちゃんと達成できている、そういう状態をつくっていくということが大事で、そのためにも、毎年度の見直しと、そして、5年後に向けて毎年見直した結果、次をどうするのかという、そういう微修正・微調整を加えながら、毎年進んでいく。そのことによって、この5カ年計画を最終的に実現していくことができる。その姿が、毎年度の運営の中でも見えてくる。そういうところをぜひ着実に進めていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、1番目の議題につきましては、このくらいにさせていただきます。また、何か言い残したことがあれば、委員の先生方、後ほどでも、結構かと思います。時間の関係もございますので、次に進ませていただきます。

【議題（2）令和8年度の施策・取組について】

○新川座長

議題の2番目は、「令和8年度の施策・取組」について、委員の先生方から、何かお気づきの点がございましたら、お願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○浦田委員

主に観光と、デジタルの推進の観点でコメントさせていただきます。

まず、観光についてですけれども、観光のサイト「The Gate to KANSAI」の旅ナカ情報提供や、デジタルパス「ミュージアムぐるっとパス」などのDXの施策といったところが位置づけられておりまして、すごく頑張っているというところで良いなと思っております。そういった情報発信をどんどん強化して、たくさんの人に来てもらうということですが、一方で、オ

オーバーツーリズムのような人が集まり過ぎてしまうということも、きちんと考えていかなければいけない問題だなと思います。単に情報発信をして、訪問者を増やすということだけではなくて、そういったところで取得できるデータなどもあるので、デジタルを使って集められるデータ、例えば、人流データをしっかりと分析して、混雑緩和であったり、周りへの周遊、地方への分散というような仕組みをしっかりと実装していくことが、持続可能な観光の実現に必要ななと思います。

もう一方、デジタルの推進ですけれども、自治体の DX の推進であるとか、オープンデータの「デジタルゲートウェイ」と書かれていますけれども、そういったことをしっかりこれから進めていかれるというのは、大事なことなんですけれども、一方で、どう使われていくかをしっかり考える必要があります。最近だと、生成 AI が登場してきたことで、データが AI に使われるという形が生まれてきていますので、しっかりと、AI が使いやすい形で公開していくということも、意識されるといいかなと思います。オープンデータのカタログサイトも、実際は、人というよりも、AI が読みに来ているというような話もよく聞きます。個人の方も生成 AI に何か情報を聞いて、AI が見つけてきた情報で過ごすというような形になってきていますので、きちんと正しい情報を分離しておくという姿勢を皆さんで取られるといいのかなと思っています。

○新川座長

はい、ありがとうございました。

観光分野での情報発信と同時に、情報を活用し、オーバーツーリズムを巧みに管理すれば、観光のより快適な状況を実現できる、また、新たな観光地の開発やそちらへの誘導といったようなことも考えていく、こういう貴重なご意見をいただきました。

また、デジタルにつきましては、データをきちんと整理し、わかりやすい形で発信をしています。AI がどんどん学習をしてくれるみたいですので、AI に正しく読んでもらえるように、こちらもしっかり良い情報を出していくということかなと改めて思っています。AI そのものの生成のプロセスというのは、若干ブラックボックスのところもありますので難しいところがあるのですが、その基本になるデータは、きちんとしていないと、AI も適切な判断はできないということだろうと思いますので、私どもも堅実なデータベースを出すようにできればと思いました。ありがとうございました。

木村先生、いかがですか。

○木村副座長

今回送ってくださった資料を改めて読み直してみました。そして、広域行政のそれぞれの領域において広がりを感じることができました。以前に比べて、より多くの活動が実施されるようになってきています。その上で、施策運営の目標などを見てみますと、2点ほど、私は改善した方がよい、このままだと誤解されかねないと思うものがあります。

第1は、満足度などの目標設定が70%となっているものがあることです。普通の顧客調査で満足度70%と出たら、対応に問題があるから、改善しないとダメだという水準に当たりますので、それを目標にするのは、特別な理由がある場合だけではないでしょうか。満足度を70%以上としているのがいくつもあったのですね。多分難しいのだろうなとは考えられるのですが、せめてなんとかして80%に持っていくのが普通ではないか思います。それが1つです。

第2は、従来に比べて、アウトプット・アウトカムが、今回よく整理できていると思うのですが、それでも、同じような指標が、ある時はアウトカムで、ある時はアウトプットになっているものがありますので、全体をまとめる方が、統一性により注意していただければと思います。

す。以上です。

○新川座長

はい、ありがとうございました。

目標として満足度を掲げていて、その数値のパーセンテージがいろいろあって、これまでの過去の経緯も踏まえて、70 や 80、85 などの数字が出ているのですが、一般的には、90%以上なければ、ちゃんとした仕事できてないというような見方をされることもあります。このあたりのご検討をいただきたいということで、ご意見をいただいたかと思います。

それからアウトプットとアウトカム、これは前々から問題になっていたところで、ずいぶんと頑張ってもらったなというところもありますが、全体を通じてみると、まだまだ整合が取れていないところがあるということで、ご指摘をいただきました。ここは、事務局でも、注意をしていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、令和8年度施策運営目標につきましては、これくらいにさせていただきます。

【議題（3）令和7年度施策運営目標及び関西創生戦略 KPI 等の結果について】

○新川座長

続きまして、「令和7年度の施策運営目標及び関西創生戦略 K P I 等の結果」について、議論をさせていただきたいと思います。これにつきまして、各委員からご意見やご質問をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○浦田委員

資料を拝見しますと、多くの施策で、A評価となっておりまして、しっかりと取り組まれているというところで、素晴らしいなと感じております。

一つ一つ中身を見ていくと、ウェブサイトの閲覧数やメールマガジンの登録数、イベント開催数といった「数」については、すごく見やすく、目標としやすい一方で、閲覧した人が、実際に行動したのかといった結果のところが、ちょっと弱めというか、そこまで測れていないのかな、という印象も受けました。やはり単純な数、アクセス数ということだけではなくて、実際の定着率や利用状況などが分かるものとして、デジタルを使えば取得できるログやアンケートの結果などがあると思います。そういったものをかけ合わせて、地域を良くすることにつながっているのかというような部分も測れるとよいのかなと感じました。

○新川座長

はい、ありがとうございました。どうしてもアウトプットもアウトカムも客観的な数値で出そうとしていて、そのことが分かりやすい評価や目標の設定につながっていくというところはあるのですが、逆に、どういう数字を選ぶかで、それが本当に当該施策事業の本来の目的や事業成果というものを表しているのか、なかなか難しいところがあります。数字の背後に隠れている一人一人の行動であるとか、あるいは数字の中でどのような具体的なインパクト、社会的なインパクトがあったのか、このあたりを捉え直していくことが今後とも課題かなと思いながら聞いていました。浦田委員からは特にログやアンケートなど、いろいろな手法を総合しながら、一定程度推定できることがあるのではないかとということでございました。今後、事務局でも研究をしていただければと思います。ありがとうございました。

○木村副座長

2つぐらいの事例でいいのですが、実際にPDCAをどう回したのかという説明として、目標がこうで、実際の達成度はこうで、その結果として、次にどんなふうにつなげましたというのを、私たちに共有いただければと思います。満足度調査も、回答率など、いろいろな情報を、個票にはつけておいた方が良いでしょう。このようなことについて、時間をとって議論させていただけるのは、ありがたいことだと思っています。

○新川座長

それぞれの予算事業がどのようにサイクルしているのかというのは、毎年度の運営目標で一定見えてきますし、過去どうだったかということも踏まえて、見えてくる。行政評価という観点で、どのようにPDCAが回って、この評価になったのかが分かりやすく説明できる資料があると、資料全体が分かりやすくなるのではないかとということで、ご意見をいただいたかと思えます。全部やると大変ですので、1つ2つというお話もありましたが、今後、ぜひ、どういう工夫ができるのかも含めてご検討いただければと思います。「令和7年度の施策運営目標及び関西創生戦略KPI等の結果」につきましては、このくらいでよろしいでしょうか。ありがとうございました。

どうしても行政評価、関西創生戦略の評価もですが、「できた」という結果しか出てきにくいところがあります。ある意味では、できそうなところを目標にしていますから、できるのが当たり前と言えは当たり前なのですが、一方では、その中でも、いろいろ工夫をしてその結果が出てきているというプロセスがなかなか見えにくく、こういう評価が、どうしても一面的な形だけのものに見えてしまうところがございます。それぞれの評価の中身について、活動のプロセスを丁寧に説明しながら、どのように評価につなげていったのかということを手前に表現す

ることは難しいのですけれども、さらに、工夫をして、わかりやすく、そのプロセスというのもうまく説明できるか。アウトプット・アウトカムの目標設定というのは、そのプロセスを表す重要な構成要素ですので、書きぶりも含めて、工夫の余地があるかもしれないということで、事務局でも研究をしてみただけだと思います。そうすると、この行政評価は、満足度何%とか何百人とかという数字で出てきたとしても、そこに至るまでどのような努力があつて、この数字になってこのような成果が出ましたと言える。そこが、多くの人たちにとって、関西広域連合がしっかり働いているという評価につながります。また、同時に、そのような努力をして、「ここまでやりました」ということが、関西広域連合の活動として、どのように次につなげていくのかということにも、繋がりやすいかと思います。書きぶりも含めて、工夫をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【議題（４）その他】

○新川座長

それでは、議題（１）、（２）、（３）につきましては、以上、いろいろお話しいただきましたが、その他につきましてご発言いただきます。

○梅原委員

11月に防災庁ができることになりましたが、これは東京でしょうけど、これは河田先生が、ずっと言い続けておられて、前石破総理に直談判でおやりになったというのは、大変大きな功績であり、関西広域連合としても大きかった。改めて河田先生に敬意を表したいと思います。併せて、関西がどのようなところで、どういう立場に立つのか。防災庁は、これから大変でし

ょうけど、霞が関の縦割り行政の中で、どのようなことができるのか、見守っていきたいと思います。

議題から離れて、いろいろなことを申し上げて、ご迷惑をかけているかも知れませんが、副首都の構想の法案が与党自民・維新連立政権の中で通りました。これから、いろいろあると思います。大阪と決まったわけではない。名古屋、仙台、広島かも、私は是非大阪にと思いますが。東京が圧倒的にすべてのものについて、非常に優位であることは間違いないのですが、大阪・関西は東京・首都圏と決定的に劣っているものが1つある。逆に言うと、他の、例えば、名古屋や福岡、札幌とはほとんど横並び。東京と決定的に劣っているものは、新幹線なんです。東京と決定的に劣っているものがなぜ新幹線か。東京に行かれる方はよくわかるでしょうけど、今、東京発函館・盛岡行、東京発新潟行、東京発敦賀行、東京発大阪・福岡行、4本の新幹線が出ています。大阪はというと、東京発福岡行の新幹線の1停車駅に過ぎないんですよ。だから横並びである。東京とは圧倒的に4対1の差がある。初めから計画があるけれど、できていない。その最たるものが北陸新幹線、四国新幹線。山陰新幹線もそうなんです。大きなものは、北陸新幹線と、次は四国新幹線。これをなぜもっと関西が声を大にして言わないのか。敦賀まで来たけれど、桂川の西につくるというのは、与党で一応案がまとまった。だから、環境影響評価を鉄道・運輸機構が早くやって、答えを出してもらおう。それが大事だと思います。私も京都ですけど、京都市民は本当に新幹線が欲しいんですかね。アンケートを取ったらほとんどいらないと言うと思いますよ。なぜなら相当のお金を払わないといけないですからね。やはり地方負担があります。府なり市なりが相当のお金を払ってまで、京都に新幹線が欲しいのかというのがあります。しかし、それはそれとして、桂川の西に一応、与党が決めたのだから、早く結論を出す。北陸新幹線には大きな役割がいくつかありますが、最大のものは南海トラフ地震への対策。南海トラフ地震は明日起きてもおかしくない。だから、早

く東京と大阪の間にリダンダンシーを作るというのが、北陸新幹線の99%の役割です。50年前に決めたのは、それなんですよ。敦賀まで来ているのに関西で揉めに揉めて、決まらないのは、今の日本の最大の問題。桂川西に決めたのですから、早く環境影響評価をやって、今年にイエス・ノーの答え出しなさいということです。そこでなかなか答えが出ないから、敦賀で止まるんですが、そうはいかないでしょうと。南海トラフ地震が起こりますよと。リニアはどうなんですか、名古屋に来るのは来年のはずだった。10年延びると言っていますが、もっと延びるでしょう。大阪にはまだ来ないと思います。だから、いつ来るかわからないものを相手にしてもしょうがない。北陸新幹線は敦賀まで来ているのに、なぜ関西で揉めるのかと。早く大阪に結ぶこと。1971年に決まったのは、小浜から亀岡ルートを通して、新大阪に新御堂を通して、直角に入ってくる案です。本来の北陸新幹線の案ならば、新大阪で止まるのだけれど、ここから関空まで行くと、他の都市と比べて、決定的に良いのは、国際空港と新幹線が結ばれるということです。日本は、国際空港と新幹線は、どこも繋がってないです。ヨーロッパは全部つながっています。日本で国際空港と新幹線がつながる可能性が唯一あるのは、大阪だけ。大阪には空港は3つある。関空につながったら、関空発東京行の新幹線ができる。副首都と言う限りは、そういう実現可能性が大いにある。副首都が大阪・関西になることを願うところなんですけれども、そのために、北陸新幹線、京都の桂川ルートでもいいけれど、早く結論を出していただきたい。

○新川座長

はい、ありがとうございました。副首都と新幹線、そして防災機能の強化。これも関西広域連合として、もっと推進できるようにぜひ1歩を進めていただきたいということで、ご意見いただきました。ありがとうございました。

なお、副首都につきましては、上村委員からもご意見をいただいております。今回の計画の中では、そこまで踏み込むことは難しかったですが、今後の推移も見ながら、中間見直し、あるいは次期の計画に向けて、一定、新幹線や防災の議論も含めて、関西広域連合としても、準備をしていかないといけないところと思っておりますので、また、今後、しっかり検討ができればと思っております。多分、第7期も5年計画かなと思っておりますので、その中でどこまで新幹線や副首都というのが具体的に入ってくるか。ちょっと読めないところがありますが、そういう政治的な決断がされた段階では、何年先であろうと、それに向けて準備はしていかないといけないというところがありますので、このあたりも意識をしながら、今後の計画を進めていければと思います。

それでは本日予定をしておりました議題はこのあたりで、ということになりますが、各委員から、特にご発言したいところがございますか。よろしいですか。ありがとうございました。

大きな1つ目として、当委員会の進め方については、今後の計画の見直しも含めまして、住民参加を、ぜひ充実をさせていただきたいということ。

大きな2つ目としては、来年度の目標設定、そこで特に「住民満足度」のようなものがよく使われているが、これについては、より実質的にアウトカムというのが現れるようなものをぜひ考えていただきたいということもいただきました。

大きな3つ目としては、計画の進め方というのをより「見える化」していく。特に5年分の計画が、毎年どう進んでいるのかということが、わかりやすく見えるような「見える化」をぜひ工夫していただきたいということもいただきました。

大きな4つ目では、万博レガシーが非常に重要なポイントであり、関西広域連合の区域内での連携ではなくて、海外との連携が進むという非常に重要なエポックが万博でできたということがありますので、どのように活用していけるか。逆にこれこそ、万博レガシーではないかと

ということで、ご意見をいただいたところでございました。このような観点で、今後の広域計画の進め方をぜひ考えていただければと思っております。

また、令和8年度の目標や令和7年度までの評価につきましても、いろいろご意見をいただきました。

観光分野での情報活用、そしてこれからの観光にどう結びつけていくか、そういう視点をぜひ読み取っていただきたい。

また、デジタル推進を通じまして、これからますます生成AIの活用なども含めて、多くの人たちがデジタル情報というのを参考にしながら、日々の暮らしを送っていく。そんな社会になっていきます。それも踏まえると、AIが読みにくる元データというのを、関西広域連合もしっかりいいネタを出しておく、もっとよく読んでもらえるということに繋がります。

また、令和7年度の評価・KPIについて、形の上では目標達成ができてしまうというところもありますが、目標値そのものの実質満足度や、アウトカム指標としているものの中身の精査は、まだまだやっていく必要があるのではないかとということで、ご意見をいただいております。毎年度工夫できる余地もありますので、事務局でも、次年度に向けて早速ご検討をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日予定をしておりました議事は全て終了ということにさせていただきたいと思いますが、各委員よろしいでしょうか。それでは、この委員会終わってからも、いろいろ思いつかれることございましたら、事務局にご連絡をいただければということをお願いしまして、私の進行は、以上にさせていただきます。事務局にお返しさせていただきます。

○事務局

新川座長ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても、多くの貴重なご意

見を賜りまして、感謝申し上げます。

本日、いただきましたご意見も踏まえながら、第6期広域計画を推進する上での参考とさせていただきます。また、この後に実施するオンライン開催でのご意見につきましては、皆様には、後日、議事録として、お送りし、共有させていただきたいと考えております。

次回委員会につきましては、令和9年2月を予定しております。

また、事前にお送りした動画でも、ご説明させていただいておりましたが、当推進委員会の委員の委嘱期間は、2年間とさせていただいており、現委員である皆様の委嘱期間は、今年度末の来年3月に満了するところです。従いまして、今後再委嘱に向けた手続きを、今年の年末頃から開始したいと考えておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、閉会させていただきます。皆様、本日はどうもありがとうございました。

【※以下、委員から事前提出された意見を一部文言修正のうえ記載します。】

○上村委員

【議題1 広域計画等推進委員会の今後5年間の進め方について】

今後の進め方においては、国の法案も通ったことを踏まえ、東京一極集中を打破し「東西二極の一極」を形成するため、「副首都構想」への明確なコミットメントを軸とした戦略的な検証と今までとの軌道修正が必要だと思います。

広域連合として大阪のやることだからと静観・傍観するのか、主体的に動くのかを今一度しっかり評価、検討し、その態度の方向性を決めておかないと、静観の後乗りは致命的リスクもあります。

具体的には、首都直下地震等の万一の事態に備え、危機管理省庁や政府機関のバックアップ拠点としての機能を関西全体で受皿整備し、国土の冗長性を高めます。これは大阪単独ではできないことです。同時に又、大阪を核心拠点としながら、関西各府県の産業・文化・物流インフラをネットワーク化し、一体的な経済圏として多重的な副首都機能を果たせる体制をこれを機に今一度構築すべきです。

どうせ、まとまらない、政治的なことがからむので難しいと逃げて静観すると大阪と国の決めたルールに従わされる未来が残ります。その場合、関西広域連合そのものの存在が塗り変えられていくでしょう。大阪がどのように考えているのかを、ここで確かめるべきだと思います。

広域計画推進委員会としては、単なる連絡調整にとどまらず、この副首都構想に早急に向き合うべきです。又、万博のレガシーをもっと生かし、ライフサイエンスや水素エネルギーなどの万博発の実証成果を域内全体へ社会実装するとともに、首都機能バックアップに寄与する広域防災・交通網の整備を段階的に推進し、国の事務・権限移譲に向けた法整備等の働きかけを強め、各自治体が役割を分担しながら関西全体で国家機能を支える実効的な実行計画を迅速に策定・推進していくことを強く期待します。

○坂上委員

【議題1 広域計画等推進委員会の今後5年間の進め方について】

・ボトムアップの住民参加型、学生との交流などが予定されていると思いますが、逆の広域連合の特性を生かした省庁など国の参加協力などの進め方について説明をお願いします。計画策定のタスクフォースを考えると整理をしておきたい内容かと思います。

・なお、本委員会の開催方法について、実会場とWEBでの2つの方式を採用されましたが、ど

うしても参加人数と時間の関係で分けた方が良いのであればテーマによる分類した方法を希望します。

(これまでの意見再掲)委員の人数を減らすことも検討して、一度に開催する選択肢もあるかと感じます。

【議題2 令和8年度の施策・取組について】

○広域観光・文化について

・観光は変化が激しく、今年7月よりの出国税が1,000円から3,000円に引き上がり、併せて国の観光予算が1,300億円超となり前年度490億円から約2.7倍になります。国外では観光税は100円、200円の少額ではなく、数千円を課税するのが一般的です。都道府県単位、市町村の両方で取る案も出ており、関西においても、今後観光税の議論が各自治体で想定されることから、広域連合としても課題認識、問題提起などの機運醸成、自治体に参考となる指針作りなどのリーダーシップを図り、自治体の観光予算の確保と振興に寄与することが望まれる。

・新年度にもかかわらず新規の予算がなく、何を見直したのか不明で、これまでの踏襲型で見栄えがしない。(上記の観光税の検討を加えてはいかがでしょうか?)

・P51 万博レガシーの継承で、イル・ド・フランスとの連携とあるが、万博では多くの国との交流がなされたと思う。なぜイル・ド・フランスを選定し、何を期待するのかを明確にすべきである。イル・ド・フランスは首都圏で日本では東京にあたる。フランスの中で関西と同じ役割は、第2の都市圏リヨンである。同格、同環境で見るとリヨンの都市圏との連携が望ましいのではないと想定するが、見解をお願いします。勿論、兵庫県事務所がパリにあり、日本文化のファンが多いのは確かですが、東京でも同じだと思います。

・P1の歳出の総括表を見ると、総務費の企画管理費が広域医療費に次ぐ大きな金額です。そこ

で、P52 の内容を見ると、運営事業しか項目立てがないので、管理コストがかかるイメージの表現に避けて、「広域連合の運営」という表現にして管理を削除した方が良いと感じます。連動して、P45 の「広域連合の企画・管理」のタイトルを「広域連合の企画・運営」とした方が内容に合致していると思う。

○共通の意見

- ・予算が 0 円とあるのは、【廃止】ではなくどのように表現すればよいのか見当をお願いします。項目を掲げながら、何もしないというのは関係者に印象が悪くなく、疑問を生むので丁寧な説明を注書きをお願いします。特に、P27 農林水産業の競争力の強化が顕著です。
- ・7つの事業ごとに管理費という少額の記載があるが、最後の管理運営の項目でまとめるなどの工夫ができないかを感じる。理解がやや複雑な印象を受ける。
- ・文字が小さくて読みづらい。エクセルの枠内の設定で上下の空欄を狭くすれば、文字は大きくなるので、今後は読み取りやすい表現をお願いします。

【議題 3 令和 7 年度施策運営目標及び関西創生戦略 KPI 等の結果について】

- ・KPI による行政評価をみると総じて問題なしとの結果になるが、これで良いのか方法論の検討を望む。(以前に出した意見と重複する)

【議題 4 その他 参考資料について】

- ・コメントの記録のみで、評価を踏まえてどのように生かすのかのまとめを希望する。グラフィックコーディングは頂いたコピーでは不鮮明で読み込みが困難です。参加していない者にとってもわかりやすくまとめて欲しい。

○西村委員

【議題2 令和8年度の施策・取組について】

アウトカムの目標数値に「満足度〇〇%以上」が14件あります。

アウトカムは施策運営目標の達成指標であり、その手段がアウトプットであると理解しています。そう考えれば、「満足度」は手段の評価であっても、手段が施策運営目標とズレていれば、アウトカムの達成と施策運営目標の達成は無関係になります。

イベント等の参加者アンケートを用いるのであれば、例えば、番号3-2「総合的・体系的な研修の実施」（2ページ、15ページ）や番号1「広域職員研修局主催研修の実施」（8ページ、52ページ）のように、運営目標に合わせた特定の質問項目に対する回答（「研修参加者アンケートで「知識・技術を修得できた」と回答した割合：85%以上」や「受講者の知識・技術の修得度合：90%以上」）にした方が適切ではないかと考えます。

事業を実施するにあたって、効果を測ることは大事です。目標を立て、検証するといったこのような作文にどれだけコストをかけているか、そのコストに見合った成果になっているかも視点を持って検証する必要があるのかもしれない。

以上